

大雨災害に注意!

水害・土砂災害から身を守るために

日頃からの備えを

近年、大雨や短時間の豪雨の発生頻度が増し、全国各地で大きな被害が出ています。大規模な河川氾濫や土砂災害の被害を防ぐためには、自分で自分の身を守るように、日頃から準備をしておくことが重要です。

住居や勤務先等の周辺に危険な場所はないか、買い物や通勤・通学路は大雨時に通れるかなど、危険な場所をあらかじめ確認しておきましょう。また、万が一の際の避難場所や避難経路の確認と、非常用持ち出し袋の準備も大切です。

大雨の時には情報を入手

大雨が予想される場合、安全に避難するためには、テレビやラジオ、ホームページ等で情報を入手する必要があります。また、大雨の際、河川付近は大変危険ですので、近づかないようにしましょう。

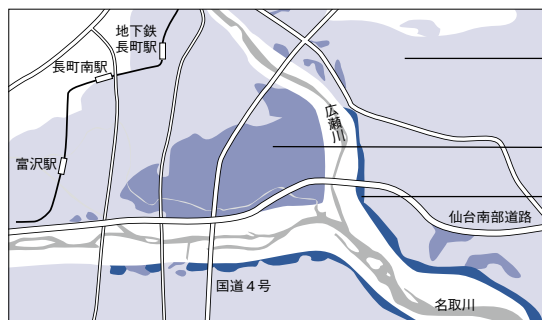
早めの避難を心掛けましょう

河川氾濫により、浸水する可能性のある区域が見直され、これまでより範囲が拡大されました。避難情報が発令されたら、早めに危険な区域から避難しましょう。特に浸水の深さが3メートル以上の区域にお住まいの方や、木造家屋が倒壊するほどの氾濫流の発生が想定される区域にお住まいの方は、早期の立ち退き避難が必要です。洪水浸水想定区域については、市ホームページの「せんだいくらしのマップ」や、区役所などで配布している「仙台防災タウンページ」のハザードマップなどをご覧ください。



■早期の立ち退き避難が必要な区域を設定しました

ハザードマップに、洪水浸水想定区域を掲載しています。お住まいの地域についてご確認ください。大雨災害が予想される場合は、速やかに区域外へ避難しましょう。



▲想定最大規模降雨による洪水・浸水概要図(広瀬川の例)

…洪水浸水想定区域

早期の立ち退き避難が必要な区域

- …浸水の深さが3メートル以上の区域
- …家屋倒壊等氾濫想定区域 (大雨の際、河川氾濫等により、一般的な木造住宅が押し流される恐れがある区域)

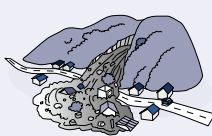
避難行動

- 自宅にとどまらず、早めに洪水浸水想定区域の外へ
- 洪水浸水想定区域外への避難が難しい場合は、早期の立ち退き避難が必要な区域外の指定避難所等の2階以上へ

▽前兆現象を見逃さずに

直前に大雨などがない場合でも、土砂災害が発生することがあります。前兆現象が見られたら、速やかに避難してください。

土石流: 土砂が、川の水や雨と共に下流へ一気に流れるもの



【前兆現象】

- 地鳴り
- 沢の水位の急激な減少
- 水の濁り

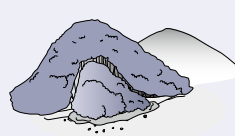
崖崩れ: 崖の土砂が一気に崩れ落ちるもの



【前兆現象】

- 地鳴り
- 落石
- 湧き水の発生、濁り、枯渇等

地滑り: 斜面の土砂等がゆっくりと下方へ滑っていくもの



【前兆現象】

- 地鳴り
- 落石
- 地面のひび割れ
- 池や沼の水位の急変

この特集に関するお問い合わせは
 減災推進課 ☎ 214・3048、FAX 214・8096